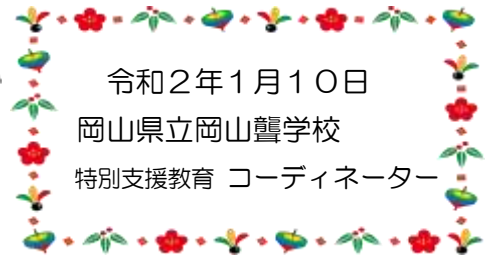




れんけい



令和2年1月10日
岡山県立岡山聾学校
特別支援教育 コーディネーター

令和2年そして新学期がスタートしました。今年度も残りわずかになりました。3学期も、子どもたちが元気に、そして目標に向かって充実した毎日が過ごせるよう支援していきたいと思ひます。



小学校に通っていて聴覚に障害のある子どもたちへの指導・支援の場として、「通級指導教室」があります。

「聴覚障害通級指導教室」が設置されているのは、岡山県では本校1校だけです。

指導場所は、岡山（岡山聾学校内教室）と倉敷（倉敷市立老松小学校内サテライト教室）の2カ所です。

今年度は、13名が、週に1回、60分～90分の指導・支援を受けに近隣の小学校から通っています。

「通級指導教室」では、聴覚に障害のある子どもたちが、困り感や不安を解消し、生き生きと学校生活を送ることができるように、個々の実態や課題に応じた指導をしています。

具体的には、

- ・発音練習（個々の課題に合わせて）
- ・言語指導（例：季節や行事に関する言葉集め、3ヒントクイズ、楽しかったお話、作文）
- ・聴覚活用（例：生活音や環境音の聞き分け、言葉や文を聞き取るクイズ）
- ・補聴器や人工内耳の管理について



などを行っています。

○指導は、個別または小集団の形態で行います。

○通級指導の担当者が年に1～2回、在籍している学校を訪問し、担任の先生等と指導について話し合います。

○保護者とは、随時、教育相談を行って、指導の内容を伝えることで、指導の効果を高めるようにしています。



「支援を受けたい」と思われている聴覚障害のお子さんや保護者の方が周りにおられましたら、通級指導教室のことをお伝えください。よろしくお願ひします。



☆通級指導教室担当（小：橘、青木）☆



補聴援助システムについて

○音環境と言葉の習得

補聴器あるいは人工内耳は、「音源から距離が離れているとき」「騒音のある環境」「音が反響する環境」等、使用条件によっては音声聞き取りにくくなります。しかし、実際の生活場面や学習場面では、このような環境で音声を聞き取る状況が度々あります。このような、環境による音声の聞き取りにくさは、子どもたちの言葉の習得に大きく影響を与えます。それは、人工内耳を装着しているお子さんにも共通して言えることです。

○本校の補聴援助システム

そこで、さまざまな環境下での音声の聞こえを向上させるために、マイク（送信機）から話し手の声を補聴器/人工内耳に取り付けた受信機へ送る補聴援助システムを活用しています。本校では現在、幼稚部・小学部の一部で磁気誘導補聴援助システム（ループシステム）を、小学部・中学部・高等部でデジタル無線方式補聴援助システム（Roger：ロジャー）を使用しています。また、この他にも、マルチマイクや comuoon（コミュニケーション）等、様々な会社が独自の補聴援助システムが販売されています。

○補聴援助システムの苦手な面

しかし、補聴援助システムを使用しているからといって、必ずしも全ての音声聞き取れるというわけではありません。例えば、複数人で同時に話をするときには、ある一人の人の音声優先的に聞こえてくるといった状況も起こります。また、異なる会社の複数の補聴援助システムのマイクを同時に使用しているときにノイズが聞こえることもあります。このように、補聴援助システムの苦手な面を理解し、聞き逃している音があることを知った上で、文字や手話などの視覚的な情報も同時に活用することも大切です。

【参考・引用文献】

藤田郁代監修『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第2版）』医学書院
大沼直紀監修『教育オーディオロジーハンドブック』シアース教育新社



○●○補聴器用の電池寿命について○●○

補聴器用電池（空気亜鉛電池）は、使用環境によって電池寿命が変動します。特に冬季は夏季に比べ30%～40%電池の寿命が短くなると言われています。その原因として次のようなことが考えられます。

- 暖房器具などの使用による二酸化炭素濃度の上昇・・・適度な換気が大切です！
- 電池の乾燥
- 低温での補聴器の使用

これらのことから、冬季は電池寿命が短くなります。急な電池切れ…ということも起こりやすくなります。毎日の電池残量の確認や予備の電池の準備をするようにしましょう。（※タブをはがしていない状態でも時間が経過するごとに電池寿命は減っていきます。買い溜めせず、頻繁に購入し、常に新しい電池を使用することをお勧めします。）